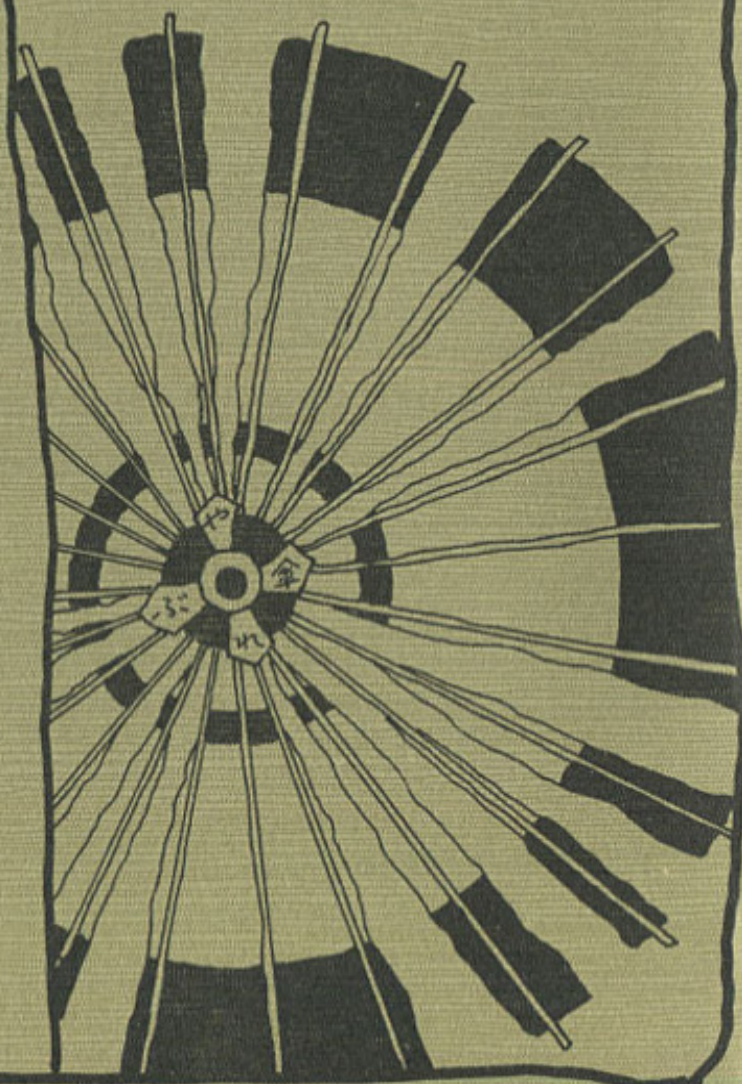


やぶれ傘



八十六号

二〇一五年十月

夜の秋の泡のほりつくハイボール 根橋宏次

ひと歩き臭木の花の下にくる 大島英昭

水溜まり小さくなりて秋の蝶 きくちきみえ

蟬時雨ガラスの壁に水流れ 丑久保 勲

沿線の案山子電車に向いて立つ 廣瀬雅男

秋の風白い絵のある白い皿 藤井美晴

金魚鉢へとビー玉を沈めけり 瀬島酒望

シーサーに八月十五日の雨 青谷小枝

芋虫のだらりと鳥に銜へられ 小山陽子

円窓の向かうに池や昼の虫 安藤久美子

稲びかり川の流れのしづかなる 白石正躬

虎尾草の尾を次々になでてゆく 菊池洋子

山の影さしかかりたり稲の花 渡邊孝彦

びちやびちやと猫が水飲むぼつたんこ 有賀昌子

野良仕事終へて鮎玉鬘雲 久世孝雄

抄 集 句 傘 ね ぶ や  
大 崎 紀 夫 選

やませ来る浜に揚げ舟二つ三つ 秋山信行

間引き菜の箒いつばいを御浸しに 國保八江

蟻の道払ひて座るベンチかな 松村光典

竹林の風を背に受け墓洗ふ 貫井照子

テントより首だして見る天の川 野口希代志

こんにやくの黒き斑点村祭り 萩原溪人

夏帽子手を挙げて来る交差点 広瀬 濟

朝霧に汽笛重なるハロン湾 山本久枝

朝顔や目礼交はず通勤路 浅嶋 肇

布着ののさきの輪島の椀や新豆腐 奥田温子

夕焼けて乾ききつたる外流し 上林富子

包丁のすばらしく切れ秋早 菊地葉子

湿布剥すやびりびりと秋の暮 忽那みさ子

夏の月熟して山に落ちにけり 小巻若菜

コスモスに埋もれし標無人駅 鈴木昌子

稲びかり

大崎紀夫

蚯蚓鳴く道を近江へくだりけり  
鉄骨が高く吊られてゆく残暑  
撃たれたるところに血糊猪にほふ  
白つぽい午後の山なみ添水鳴る  
かなかなの夜明けより鳴く川向う

乾きたる磧を秋の蝶がゆく  
人影のふくらんでゆく稲びかり  
月白の川原に工事事務所の灯  
香煙の乱れてのぼる秋じめり  
雨の降る向うに鷺のゐる刈田  
月山のふもと晴れくる葛の花  
城跡の空より来たたる稲雀

ハイボール

根橋宏次

夜の秋の泡のぼりつぐハイボール  
二つあるうちの一つのメロン切る  
とんかつのさくと揚がりし冷し酒  
かはりなき漁港のにほひ赤とんぼ  
鶏小渥のにほひ唐黍畑まで  
砂を噛むやうではあるが長十郎  
ひぐらしを待つともなしに酒となり  
さざ波の蛇籠に吸はれゆく厄日  
爽やかや裏真つ白な包装紙  
上流に降りたるにごりいわし雲

臭木の花

大島英昭

グラシン紙破れたる古書パリー祭  
流木に夏鴨のゐて亀のゐて  
東京の鴉のせせるメロン屑  
ここいらが市ざかひ蕚の花咲いて  
降りさうな午後に来てゐる稲雀  
ひと歩き臭木の花の下にくる  
空白くうつる湖秋徼雨  
土手上に川風とどく法師蟬  
どの木にもアヲマツムシが棲んでゐる  
団栗が降り水筒の水が揺れ

秋の蝶

きくちきみえ

乾びたる蚯蚓跨げば齒科医院  
炎昼のパラボラアンテナ凹みたり  
向日葵のたうたう下を向きにけり  
はじめから傾いたままの秋簾  
水溜まり小さくなりて秋の蝶  
泳ぎきつたるくちなはの尺二寸  
秋なすの五六個煮たり丸のまま  
鬼やんま止まれば浮子の先沈む  
靡くだけ列車に靡く猫じやらし  
秋の雨単三電池充電中

赤のまま

丑久保勲

自転車の後ろ籠よりトマト落つ  
蟬時雨ガラスの壁に水流れ  
ジェラートや天井のファンゆつくりと  
朝顔の金網傾ぐ小学校  
寝る前に水をひと口ちちろ鳴く  
宇都宮餃子屋に列赤のまま  
花野より飛行機雲を見上げけり  
用水を草流れゆく赤とんぼ  
雨弾く帆布のバッグ秋桜  
門口に子供自転車紅芙蓉



案山子

廣瀬雅男

川風におはぐるとんぼ流されて  
おさなごの踊るしぐさの大人びて  
荒川の向う岸より秋の雷  
城垣の少し崩れて草の花  
秋暑し郵便局に下駄履いて  
爽やかや空に向けたる象の鼻  
秋雲の暮れゆくさまを露天風呂  
池の辺に似顔絵描きや秋の昼  
沿線の案山子電車に向いて立つ  
小さき椅子並べる茶店木の実落つ

白い皿

藤井美晴

ひぐらしのこゑをぐるりに石切場  
みみず鳴く工事現場の午後六時  
秋祭りときどき雨が降りにけり  
気がつけば雨止んでをり鶺鴒のこゑ  
竜胆を素焼の壺に投げ入れる  
秋蝶が来るさざなみの船溜まり  
萩の風空を夜鳥のよぎるこゑ  
駅を出てやがて小暗き芋畑  
仕舞ひたる市の月夜を通りけり  
秋の風白い絵のある白い皿

金魚鉢

瀬島洒望

息をしてをり庭石の瑠璃蜥蜴  
金魚屋の金魚売り場に喫茶室  
金魚鉢へとビー玉を沈めけり  
白南風や屋根のあるバス停留所  
菊芋や耐震補強済みし蔵  
仏壇の隅に置かれし水中花  
みルみんや生みたて卵即売所  
穂薄や湖畔に馬を貸すところ  
菊活けてこぢんまりした写真展  
秋暑し畑の隅に屑野菜

冬 瓜

青谷小枝

声だして曲がる残暑の救急車  
シーサーに八月十五日の雨  
聞き分けて一つ二つは法師蟬  
鰯雲竹で編みたるもの軽く  
図書館の木椅子飴いろ秋の昼  
楠の葉は揺れ法師蟬は鳴き  
あかとんぼ群れ病棟の長き屋根  
紙鍋の底に炎の色秋の夜  
駐在は不在冬瓜ごろとあり  
光る塩振り新米を結びける

## ◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	3日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	4日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
12月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	上野動物園	丑久保 勲
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月20日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR上野駅公園口改札口。吟行地は上野動物園。句会場は滝野川会館(古河庭園の斜向かい)。

◎連絡先

瀬島 孟 ☎ 048-862-2757	藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041	WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522	浦和コミセン ☎ 048-887-6565
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856	WEP俳句教室 WEP編集室へ